

幼サンゴの加入状況調査について

平成29年12月

沖縄防衛局

○幼サンゴの加入状況調査

- ・普天間飛行場代替施設建設事業の実施区域周辺は、白化現象によるサンゴ類の生息範囲、被度が大きく減少し、サンゴ礁生態系の再生が望まれる海域であることに鑑み、実行可能な環境保全措置の検討のため、幼サンゴの加入状況調査を実施中（下記調査状況参照）。
- ・埋立工事施行区域内の14地点については調査を実施中であるが、同施行区域外の24地点については、海底面への人工着床具の設置に伴い、県知事からの公共用財産使用の同意が必須となることから、現在、沖縄県と協議を行っているところ（図-2）。
- ・このため、当該公共用財産使用の同意が得られるまでの間、埋立工事施行区域内の14箇所のみにおいて調査を継続。
- ・今般、石西礁湖における人工着床具設置事例（詳細は次ページ参照）について調べたところ、本事業とほぼ同じ大きさ・形の着床具と同じ大きさの架台が使用されており、本事業では架台をそれぞれ海底面に設置しているところ、石西礁湖では複数の架台を「足場パイプ枠」を用いて海底面に設置。石西礁湖においては、10年間にわたる事業において、人工着床具の設置が周辺環境に影響を与えたとの指摘はされておらず、妥当性を確認。
- ・事務局としては、人工着床具の設置の妥当性について、引き続き、沖縄県に対し丁寧に説明するなど、速やかに当該公共用財産使用の同意が得られるよう努力することとし、同意が得られ次第、速やかに埋立工事施行区域外の24地点の人工着床具を設置し、おおむね3か月ごとに、幼サンゴの着床・成長度合いについて潜水目視及び水中カメラ等による調査を実施予定。



図-1: 人工着床具

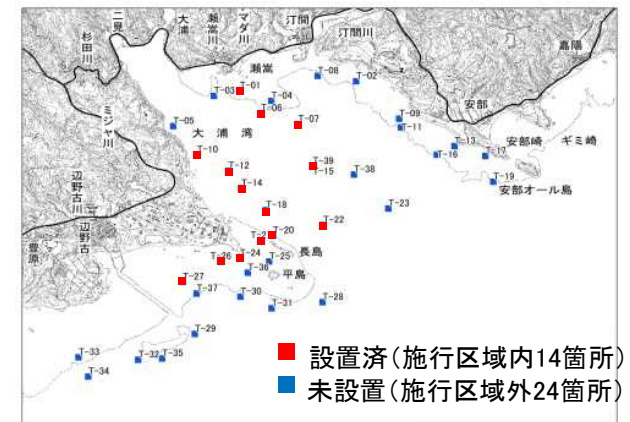
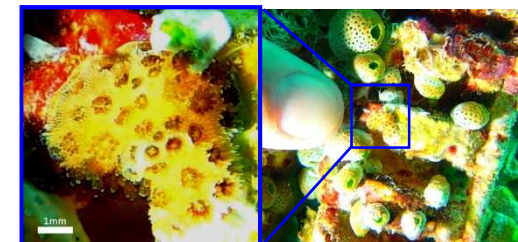


図-2: 人工着床具設置箇所

【調査状況】

- 調査箇所 : 施行区域内の14箇所（5月22日～25日までに人工着床具を設置）
 調査実施日 : 平成29年8月（25日、28日及び29日）、11月（7日～9日）
 調査結果 : 潜水目視及び接写可能な水中カメラによる観察を行った結果、11月の調査で1群体を記録（T-18：ハナヤサイサンゴ科）。



○石西礁湖における人工着床具設置事例(環境省が平成17年度から実施しているサンゴ群集修復事業) 【環境省(那覇自然環境事務所、石垣自然保護官事務所)へのヒアリング結果】

1. ヒアリングの目的

ジュゴンの鳴音探知のための水中録音装置や幼サンゴ人工着床具といった人工物を海底に設置することに伴う環境影響について、第9回委員会において、人工着床具を設置している石西礁湖の事例についてヒアリングを行ったかどうかとの助言を受けて実施した。

2. ヒアリング結果の概要

①着床具の構造・大きさ、設置場所・範囲、設置期間

(着床具の構造・大きさ)

- ・着床具は、本件調査とほぼ同じ大きさ・形で、セラミック製、スラグ製を使用(本調査はセラミック製のみ使用)
- ・本調査と同じ大きさ(60cm×60cm)のステンレス架台に、着床具コマをセットしたケースを6つ設置
- ・ステンレス架台を、海底に設置した「足場パイプ枠」(最大で4m×2m程度)に設置

(設置場所・範囲)

- ・石西礁湖の5海域(リーフ上3海域、リーフ外1海域、リーフ外縁1海域)に、パイプ枠が2~11基設置されている。

(設置期間)

- ・パイプ枠は、リーフ上では10年程前から設置したままで、老朽化したものは交換している。
- ・リーフ外ないしリーフ外縁では、幼生加入時期である春~夏にかけてのみパイプ枠を設置、台風対策として静穏な海域(リーフ上の1海域)へ移設。

②環境影響を低減するためにした工夫の内容

- ・多数の場所を見て、サンゴ類の着床が多く、波浪の影響を受けにくい場所を選定、着床具の架台は、サンゴの生存が少ない砂地等に設置している。

③周辺環境への影響について

- ・台風の規模や進路によっては、鋼管パイプや着床具が流出することもあったが、評価は難しいが影響は軽微だと考えられる。周辺にダメージを与えたことは確認されていない。

3. 本件事業における検討

上記ヒアリングの結果から、事務局としては、人工着床具やジュゴンの水中録音装置の設置時にサンゴ類等を避けて設置することなどにより、できる限り周辺の環境に影響を与えないよう配慮したい。

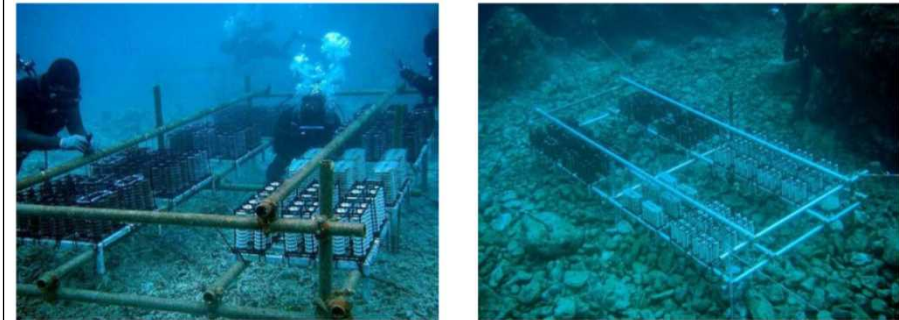


図-3: 石西礁湖における人工着床具の設置状況

資料: サンゴ幼生着床具を用いたサンゴ群集修復マニュアルⅥ
(環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所、平成24年3月)